

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月18日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670105123号		
法人名	有限会社 ライフサポート		
事業所名	グループホーム 福 平		
所在地	鹿児島県 鹿児島市 下福元町 7505番地 (電 話) 099-210-8550		
評価機関名	NPO法人自立支援センター鹿児島福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年5月18日	評価確定日	平成21年6月6日

【情報提供票より】 (平成21年 4月 30日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤11人 非常勤8人 常勤換算14.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	2階建ての	1～2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

(4) 利用者の概要 (4月 30日現在)

利用者人数	18名	男性 4名	女性 14名
要介護1	3名	要介護2	5名
要介護3	4名	要介護4	6名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 86.4歳	最低 71歳	最高 98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	坂之上生協クリニック、敬愛クリニック、永山歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市郊外の静かな住宅街にあり、広い敷地内に法人の系列の施設がある。庭には菜園があり、職員と利用者が一緒に野菜を作っている。毎月外食に出かけたり、年1回ユニット毎の一泊旅行に職員・利用者・家族が参加している。本人らしく安心して暮らしてもらえるように管理者・職員は日々のケアに取り組んでいる。また、職員同士も仲が良く、笑顔でサービスの向上に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価での改善点は、運営推進会議や職員会議の中で話し合いを行ないながら取組みがなされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	職員と話しをしながら自己評価を行ない、管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を行い、地域の方々にも参加してもらい、会議中でのアドバイス等を日々のケアに生かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置し、面会時には声かけを行ない、家族の意見や要望を聞いたりして、運営に反映できるように努めている。
重点項目④	校区の運動会に参加したり、中学校の資源回収の場所の提供をしている。サマーボランティアや民生委員にも声をよくかけており、近所の住民が野菜や手作りのお菓子を持参したり、また散歩時に地域の住民と交流している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームとして地域の中でその人らしい暮らしができる理念、ユニット毎の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時に理念を唱和している。スタッフルーム・玄関・和室に理念を掲示し、日々のケアに取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	校区運動会に参加したり、中学校の資源回収の回収場所を提供している。また近所の住民に野菜作りの指導を受けたり、野菜や手作りお菓子をいただいたりしながら交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で話し合いをしながら自己評価を行ない管理者がまとめた。外部評価の実施の意義を理解していて改善への取り組みも行なっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で利用者の状況を報告し、アドバイスをを受けたり意見も聞きながら、サービスの向上に活かす取り組みを行なっている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	保健センターや介護課に行くことはあるが、市の担当者とはあまり行き来できていない。	○	市担当者と行き来する機会をつくり、行政とともにサービスの質の向上に取り組むことが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、請求書送付時に、ホームでの様子やホーム便りを発行している。面会時に報告をしたり、健康状態に変化がある時はそのつど電話で報告している。金銭管理は、出納簿を作って報告を行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に必ず職員が声かけを行ない、意見や要望を聞き、運営に反映できるように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者のダメージを防ぐためにできるだけホーム内異動にとどめている。新しい職員にはオリエンテーションを十分行い、統一したケアができるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任採用時は研修を行なっている。法人内外の研修会にも積極的に参加している。資格を取るための協力体制もできている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「地区グループホーム勉強会」に参加している。同業者との情報交換・交流・勉強・相互訪問等を行いながらサービスの質の向上への取り組みを行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスを利用する前に、本人が馴染みの関係ができ安心してもらえるようにホームに来てもらっている。家族にも協力を頂きながら一緒に食事をしたり声かけを行なって支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	芋の植え付けや芋堀り等、畑仕事を一緒にしたり、そば打ちをしたり、お互いに支えあう関係作りを大切にしている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	献立の希望を聞いたり趣味ややりたい事・外出等、本人の意向や希望に添えるように会話や声かけを行ない把握するように努めている。困難な場合は、家族から情報を得たり、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のケース会議で職員の意見を聞きながらケアを提供するようにしている。本人や家族と話をしながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間や状況に応じて介護計画の見直しを行なっている。状態変化がみられる時は、本人・家族関係者と話をしながら計画の見直しを行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の要望や状況に応じて、美容院・通院介助・外出等の多機能性を活かした柔軟な支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望するかかりつけ医での受診を支援している。緊急時には往診が受けられる複数の医療機関の体制ができています。「病院受診連絡表」をホーム独自で作成し適切医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用時に重度化・終末期について本人家族に書面で確認している。かかりつけ医・職員ともに共有している。また、状況の変化に応じて再度確認を行なっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを大切にしながら、言葉かけや対応等に気をつけて日々のケアを行なっている。記録や個人情報についての取り扱いにも配慮がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間・個室での食事・買い物・散歩・昼寝・掃除・入浴等、一日のスケジュールの中で一人一人のペースを大切にしながら、利用者の希望にそって支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや意見を取り入れながら献立を作成している。本人の力量に応じて菜園の収穫を行う等、楽しく会話をしながら職員と一緒に食べたり、準備や片付けも行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一番風呂に入りたい人や午後から入りたい人等、一人ひとりのペースや希望に合わせて、タイミングを見ながら、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑づくりや洗濯物たたみ・食事の準備等、利用者一人ひとりの役割や楽しみごと・気晴らしの支援を行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩や外食希望の利用者の支援・食材購入の外出等、できるだけ戸外に出かけるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関・居室等施錠をしていない。全職員が鍵をかけることへの弊害をおこさないように、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っており、夜間想定等の訓練も行なっている。地域住民に今後参加の声かけを検討している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況をチェック表に記録している。水分は1500ccを目安に声かけをしている。定期的に、保健センターの栄養士に献立を見せてアドバイスを受けている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をテーブルや玄関に飾っており、廊下には利用者が描いた野の花の額が掛けてある。食堂兼リビングで利用者は、テレビを見たり会話を楽しめる団らんの空間づくりがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自画像・位牌・写経・家族の写真・裁縫箱・おもちゃ等、使い慣れたものや本人の好みの物が置かれ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。